

⑫ 公開特許公報(A) 平3-169967

⑬ Int. Cl.<sup>5</sup>

E 04 F 15/02  
15/04  
15/16

識別記号

庁内整理番号  
G 7805-2E  
B 7805-2E  
F 7805-2E  
E 7805-2E

⑭ 公開 平成3年(1991)7月23日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 置敷き床材

⑯ 特 願 平1-306911

⑰ 出 願 平1(1989)11月27日

⑱ 発 明 者 林 守 男 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内  
⑲ 発 明 者 山 崎 清 好 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内  
⑳ 発 明 者 峰 岸 康 之 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内  
㉑ 出 願 人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地  
㉒ 代 理 人 弁理士 石田 長七 外2名

明 細 書

1. 発明の名称

置敷き床材

2. 特許請求の範囲

(1) 床下地面上に置敷きされる置敷き床材であつて、柔軟性を有するシート状の合成樹脂成形品製の基材の表面に薄い木質化粧板が積層され、基材の一端縁に嵌合突部が形成され、他端縁に嵌合突部が嵌合することが出来る嵌合凹所が形成され、嵌合突部と嵌合凹所との一方に抜止め突部が形成され、他方に抜止めの突部が挿入して抜止めを図る抜止め凹所が形成されて成ることを特徴とする置敷き床材。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、モルタル、コンクリート等により仕上げられた床下地上に直接に敷設される置敷き床材に関し、詳しくは木質の表面を有しながら、木質系における反りを回避し、機密性も付与し、か

かる構成のものを製作容易に得るとともに、その施工において抜止めを行う抜止めの構成も容易に形成しようとする技術に係るものである。

〔従来の技術〕

従来から、モルタル、コンクリート等により仕上げられた床下地上に敷設される木質床材は知られている。例えば、第4図に示す如く、木質合板のような木質基板1aの裏面に複数個の溝bを並設し、同裏面にクッション材cを貼着してなる木質床材Aaが知られている。ところでこのような木質床材Aaは、床下地上に接着或いは釘打ち施工等により固定されて敷設施工されるものであり、溝bとクッション材cによって、防音効果が得られるものである。しかしながら、このような木質床材Aaにおいては、溝bが設けられているものの、木質基板1aには屈曲柔軟性がなく、充分な屈曲柔軟性を得るために、溝bの並設個数を増やしたり或いは溝bの深さす法を深く形成した場合には、溝cに対応して木質化粧板2の表面に亀裂が発生し易く、強度及び表面意匠上問題となるものであつ

た。それ故に、木質床材A<sub>0</sub>においては、充分な屈曲柔軟性がないままに、床下地上に施工されており、床下地への馴染みが悪いために、床下地上に接着或は釘打ち施工等により固定して、強制的に床下地に馴染ませて施工していた。この場合、施工に接着或は釘打ち等の作業が伴って、敷設施工が面倒であるとともに、木質床材A<sub>0</sub>の取り替えが極めて困難となるものであった。加えて、木質基板1<sub>0</sub>に多数本の横木の加工を精度良く行うのが繁雑となり、その製作面及び機能面において問題があった。しかも第5図に示すように、木質基板1<sub>0</sub>の一端端に嵌合突部3<sub>0</sub>を形成し、他側端に嵌合凹所4<sub>0</sub>を形成して、両者を嵌合させて木質床材A<sub>0</sub>、A<sub>0</sub>同士を接続するのであるが、かかる接続に際しては、嵌合凹所4<sub>0</sub>に接着剤dを充填して嵌止めを図るのである。ところがこのように接着剤dを充填するものにおいては、その嵌合時に接着剤dがはみ出し、これの拭き取り作業を要する等の問題がある。

#### 〔発明が解決しようとする課題〕

れて成ることを特徴とするものである。

#### 〔作用〕

このように、柔軟性を有するシート状の基材1の表層に薄い木質化粧板2が積層されることによって、柔軟性を有するシート状の基材1には木質基板のような反りが生じることがなく、基材1には柔軟性によって撓み性を付与し、床下地面に馴染むようにし、床下地の凹凸をより吸収し、床下地面によりびったりと接することで、置敷き床材Aの滑りを抑えることとなって、床下地上に直接に接着或は釘打ち等の作業を行うことなく簡単に敷設(直張)施工が行えるようになり、かかる柔軟性を有するシート状の基材1にて振動の伝播を抑制し、防音性も高め、構加工を回避して、その生産性を高め、そして成形品の基材1とする場合には、樹脂の選択に寸法安定化を図りやすく、開架のものとの結合を図る結合部の製作も容易になし、コストダウンも図れ、種々の付加価値を加えることができ、しかも基材1の一端端に嵌合突部3が形成され、他側端に嵌合凹所3が嵌合することが

本発明は、上記従来技術における欠点を解消するために発明されたものであり、その課題は、基材に充分な屈曲柔軟性があり、床下地への馴染みが良く、しかも、木質化粧板の表面側には亀裂が発生し難く、強度面或は表面劣化上の問題がなく、床下地上に接着或は釘打ち等の作業を伴うことなく敷設施工でき、かつ振動抑制及び防音を充分に充分に行うことができ、その生産も大巾に高めることができ、かつ接続に際しても容易迅速に行うことができる置敷き床材を提供することである。

#### 〔課題を解決するための手段〕

本発明の置敷き床材は、床下地面上に置敷きされる置敷き床材であって、柔軟性を有するシート状の基材1の表層に薄い木質化粧板2が積層され、基材1の一端端に嵌合突部3が形成され、他側端に嵌合凹所3が嵌合することができる嵌合凹所4が形成され、嵌合突部3と嵌合凹所4の一方に嵌止め突部3<sub>a</sub>が形成され、他方に嵌止め凹部3<sub>a</sub>が嵌入して嵌止めを図る嵌止め凹所4<sub>a</sub>が形成さ

る嵌合凹所4<sub>a</sub>が形成され、嵌合突部3と嵌合凹所4との一方に嵌止め突部3<sub>a</sub>が形成され、他方に嵌止め凹部3<sub>a</sub>が嵌入して嵌止めを図る嵌止め凹所4<sub>a</sub>が形成されることによって、嵌合突部3を嵌合凹所4に嵌合させるとともに嵌止め突部3<sub>a</sub>を嵌止め凹所4<sub>a</sub>に係合させることで、接着剤の使用を回避して、置敷き床材A、A<sub>0</sub>同士の接続を容易迅速に行え、置敷き施工に有利になし、かつかかる接続のための構成も容易に得られるようにしたものである。

#### 〔実施例〕

以下本発明の実施例を図面に基いて詳述する。

木材を薄くスライスして木目を有する突板(スライス基板)のような木質化粧板2が、合成樹脂製で柔軟性があり、シート状の基材1の表面に積層しており、その基材1の一端端には嵌合突部3が形成され、他側端には嵌合凹所4が形成されている。このような嵌合突部3及び嵌合凹所4の形成は、基材1の成形時に同時に行なわれる。そして木質化粧板2は、0.25mm～0.6mm程度の厚

そのスライス単板に1mm~2mm厚程度の乾式のラワン単板を裏打ちしたものや、1mm~3mm厚程度のスライス単板のみのものがあり、このような木質化化粧板2を合成樹脂製の成形品製の基材1にその成形時に積層接着するか、別途に接着剤にて接着する等するものである。そして基材1は例えば金属粉末を混入する等した透水性及び防水性の高い透音シートを使用するとよい。

このように、柔軟性を有するシート状の基材1の表層に薄い木質化化粧板2が積層されることで、柔軟性を有するシート状の基材1には木質基板のような反りが生じることがなく、柔軟性によって挽み性が得られて、床下地面に良好に馴染むのであり、床下地の凹凸をより吸収し、床下地面によりぴったりと接するのであり、しかして置敷き床材Aの滑りを抑えることとなって、床下地上に直接に接着成は釘打ち等の作業を行うことなく簡単に敷設(直張)施工が行えるのである。そして柔軟性を有するシート状の基材1にて振動の伝播を抑制するのであり、又、防水性も高めるのである。

向は嵌合突部3と嵌合凹所4との嵌合方向を示している。

#### 【発明の効果】

以上要するに本発明は、柔軟性を有するシート状の基材の表層に薄い木質化化粧板が積層される故、柔軟性を有するシート状の基材には木質基板のような反りが生じることがなく、基材には柔軟性によって挽み性を付与し、床下地面に馴染むようにし、床下地の凹凸をより吸収し、床下地面によりぴったりと接することで、置敷き床材の滑りを抑えることとなって、床下地上に直接に接着成は釘打ち等の作業を行うことなく簡単に敷設(直張)施工が行えるようにでき、かつ柔軟性を有するシート状の基材にて振動の伝播を抑制することもでき、防水性も高めることもでき、滑加工を回避して、その生産性を高め、そして成形品の基材とする場合には、樹脂の選択にて寸法の安定化を図りやすく、隣接のものとの結合を固る結合部の製作も容易に行え、コストダウンも図れ、種々の付加価値を加えることができ、しかも基材の一側面に嵌合

そして滑加工を回避して、その生産性を高めるのである。又、合成樹脂製の成形品の基材1枚、樹脂の選択にて寸法の安定化を図りやすく、隣接のものとの結合を固る嵌合突部3及び嵌合凹所4のような結合部の製作も容易に行えるのである。

そして、嵌合突部3には第1図に示すように、抜止め突部3aが形成されるのであり、抜止めの凹所4aには抜止め突部3aが係入して抜止めを固る抜止め凹所4aが形成されている。しかして、嵌合突部3を嵌合凹所4に嵌合させるとともに抜止め突部3aを抜止め凹所4aに係合させることで、接着剤の使用を回避して、置敷き床材A、A同士の間接を容易迅速に行え、置敷き施工に有利になし、かつかかる接合のための構成も容易に得られるのである。そして接合に際しては、嵌合突部3の嵌合に伴って嵌合凹所4の下片4bが下方に弾性変形し、嵌合後は下片4bが復元して、確実な抜止めを固めている。そして第2図及び第3図の矢印方向へのスライドにて、木口方向に移動させ、置敷き施工が行なわれる。第3図の矢印イ方

突部が形成され、他側面に嵌合突部が嵌合することができ、嵌合凹所が形成され、嵌合突部と嵌合凹所との一方に抜止め突部が形成され、他方に抜止め突部が係入して抜止めを固る抜止め凹所が形成されているから、嵌合突部を嵌合凹所に嵌合させるとともに抜止め突部を抜止め凹所に係合させることで、接着剤の使用を回避して、置敷き床材A同士の接合を容易迅速に行え、置敷き施工に有利になし、かつかかる接合のための構成も容易に得られるという利点がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の接合作用を示す断面図、第2図は同上の接合状態の断面図、第3図は同上の施工形態を示す平面図、第4図は従来例の断面図、第5図は従来例の接合作用を示す斜視図であり、1は基材、2は木質化化粧板、3は嵌合突部、3aは抜止め突部、4は嵌合凹所、4aは抜止め凹所である。

代理人 弁理士 石田 長七